

ルーブリック評価表

第1章1節 実践Work わたしたちが生活する社会の課題

評価観点	評価方法	項目	A(十分に満足できる)	B(おおむね満足できる)	C(努力を要する)	評価の留意事項
主体的に学習に取り組む態度	check	学習の振り返り	問1・2の内容に具体性があり、学習を振り返って、考えたこと、疑問に思ったことが具体的に記述されている。次への学びに取り組もうとしている記述が見取れる。	問1・2の内容を踏まえて、学習を振り返って、考えたこと、疑問に思ったことが記述されている。	本文やCASEを読んでいない。または、問1・2の問題の意味を理解せずに学習を振り返っている。(本文やCASEの内容と問いを再度確認する必要がある。)	AとBの評価の違いは、本文やCASEを読み1・2の問いの内容について具体的な記述がされており、学習を振り返っているかで判断する。
主体的に学習に取り組む態度	観察	問1・2	グループ内のほかの人のアイディアと組み合わせるなどグループ内で建設的な発言を行うことができ、他のメンバーに対しても配慮するなど、グループ活動に大いに貢献することができる。	グループ内の話し合いに参加し、意見を整理したり、関連づけたりして発言することができ、グループ活動に貢献することができる。	グループ内の話し合いで発言することができず、グループ活動に貢献することがほとんどできていない。(グループの意見を参考にしながら、提案することの大切さを理解させる)	グループで話し合う場面で、評価を行う。AとBの評価の違いは、グループ内で、活動の中心となって活動していたかが判断基準となる。評価において、生徒に議事録を取らせたり、教員が観察シートを手元にもち、発言を観察するなど、工夫が必要である。
知識・技能	Work	問1	問1に対して、インターネットを利用し調べ、自分で調べた内容を記述することができる。また、少子化や高齢化のマイナスの影響だけでなく、プラスの影響も考え、わかりやすくまとめ記述することができる。また、考えた内容をグループ内で説明することができる。	問1に対して、インターネットを利用し調べ、自分で調べた内容を記述することができる。また、少子化や高齢化のマイナスの影響だけでなく、プラスの影響も考え、わかりやすくまとめ記述することができる。	問1に対して、インターネットを利用し調べ、自分で調べた内容を記述することができる。また、少子化や高齢化のマイナスの影響だけでなく、プラスの影響も考え、わかりやすくまとめ記述することが不十分である。(インターネットや書籍の利用による調べ学習について確認する必要がある)	Workの問1「自分が調べた内容」で評価を行う。AとBの評価の違いは本文やCASEの記載内容であり、その内容により、自分で調べた内容を記述すること、少子化や高齢化のマイナスの影響だけでなく、プラスの影響も考えが記述されていることがわかりやすく整理されている事がAの条件である。
思考・判断・表現	Work	問1	問1で自分が調べた内容を元に、グループで話し合った内容や気付いたことを考え、論理的に記述することができる。また、考えた内容をグループ内で説明することができる。	問1で自分が調べた内容を元に、グループで話し合った内容や気付いたことを考え、記述することができる。また、考えた内容をグループ内で説明することができる。	問1で自分が調べた内容は記述しているが、グループで話し合った内容や気付いたことを考え、記述することができていない。また、考えた内容をグループ内で説明することができていない。(自ら考え、それを表現することの意義を確認する必要がある)	Workの問1「グループで話し合った内容や気付いたこと」で評価を行う。AとBの評価の違いは自分で調べ考えた内容をもとにグループで話し合った内容や気付いた事を、論理的でわかりやすくまとめられ記述されていることがAの条件である。
思考・判断・表現	Work	問2	問2に対して、地方と都会で地域格差が生まれてしまうのか理由と対策が具体的かつ論理的に記述され納得感がある。	問2に対して、地方と都会で地域格差が生まれてしまうのか理由が記述され、その理由に基づいて対策が記述されている。	問2に対して、地方と都会で地域格差が生まれてしまうのか理由と対策があまり記述されていない。(グループ内での活動のヒントや自ら考え、それを表現することの	Workの問2で全てで行う。AとBの評価の違いは、地方と都会での地域格差が生まれてしまう理由を様々な視点にまとめて具体的な対策を記述しているかどうかである。なお、グループ内で発表を行う場合は、観察を行い、わかりやすく説明できているかも考慮する。